

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：32682

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K20046

研究課題名（和文）韓国における政党の民意代弁能力：大衆政党なき民主主義国家の一事例として

研究課題名（英文）Democracies without Mass Parties: The Case of South Korea

研究代表者

縄倉 晶雄（NAWAKURA, AKIO）

明治大学・研究・知財戦略機構（駿河台）・研究推進員

研究者番号：60806587

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本及び韓国での文献レビュー、また韓国での選挙関係者へのインタビュー調査を通じ、韓国における政党の民意代弁能力、特に利益団体の意見集約能力の現況とその要因を調査した。調査の結果、特定地域の選挙区を票田として抱える韓国の政党は、利益団体を通じて表出された民意を代弁する能力と意思が強いものの、利益団体も複数政党へのアプローチを行うなど、そうした政党の性質を前提として利益表出活動を行っており、結果として韓国の政党政治は一定の利益表出を行えていることが確認された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、英米のように理念や階級を政党間のクレーヴィッジとせず、地域間の利害対立を政党間の主たるクレーヴィッジとする韓国のような民主主義国家においても、利益団体と政党の間には一定の利益伝達関係が形成され、利益団体を通じて表出される世論が政党によって達成されえることを示した。

研究成果の概要（英文）：This study surveyed political parties' role and capacity to represent public opinion in South Korea, particularly focusing on the relations with political parties and interest groups. Literature review in archives in South Korea and Japan and interview in South Korea were employed as the methods of the research. The result of the study revealed that the major political parties in South Korea have limited capacity and willingness to respond to the demand by interest groups because the parties have safe-seats constituencies based on the nation's regionalism. On the other hand, however, also the interest groups in South Korea operate pressure activities based on the influence of regionalism. As a result, the interest groups in South Korea have achieved some of their goals in pressure activities.

研究分野：政治学

キーワード：韓国 政党政治 利益団体

1. 研究開始当初の背景

本研究は、主要政党が地方支部など大衆に根差した組織構造を持たず、かつ主要政党の対立が理念や階級などではなく、リージョナリズムなどに基づいている新興民主主義国において、政党が世論における利益表出の要求にどこまで対応するのか、またできるのかという問題意識の下に開始された。

2. 研究の目的

上記背景の下、リージョナリズムが主要政党間の主たるクリーヴィッジとなっている韓国で、民主化以降、主要政党が世論、特に利益団体を通じて表出(可視化)された要求に対し、どのように対応してきたのか、またその対応の有無はどのような要因に基づくものなのかを明らかにすることを企図し、本研究は実施された。

3. 研究の方法

日本及び韓国の国会図書館、国立図書館等での文献収集、及び労働組合のナショナルセンターなど、利益表出活動を行っている団体へのインタビュー調査を研究手法として用いた。

4. 研究成果

本研究の前半期間においては、そもそも政党において世論と向き合い、その実現を担う中心的なアクターとなる国会議員が、韓国においてはどのようなキャリアパスを形成しているのかを文献レビューを中心に考察した。その結果、韓国の主要政党は、党としては確実に議席を獲得できる安全選挙区(safe seats)があるためにその系譜を維持する一方、党内レベルでは、安全選挙区での候補者公認をめぐる激しい派閥抗争を展開しており、その議員としての地位が不安定であることを明らかにした。そして、このように党内での地位の不安定な議員が集まる韓国の政党政治では、利益団体を通じて世論を党議に介在させる余地があまり大きくないことを明らかにした。

後半期間においては、上記のように政党政治の側に世論を吸収するキャパシティはあまり大きくない韓国において、利益団体がその会員の利害をどう政党政治に反映させようとしているのかを、文献レビューとインタビュー調査を併用して実施した。その結果、労働組合のナショナルセンターが主要政党双方に組織内候補を擁立するなど、党議に世論を反映させる側も、政党側のレスポンスが低調であることを前提とした利益実現戦略を立てており、結果として韓国においても、政党政治に一定程度世論の利益表出が反映されていることが確認された。

〔雑誌論文〕

本研究に基づく成果のうち、雑誌掲載論文は計5件であり、うち4件は査読を経て学術雑誌に掲載された(いずれも単著)。

2020年7月に刊行された「新興民主主義国家としての韓国における政党政治の制度化 2020年総選挙を事例とする予備的考察」(『文教大学国際学部紀要』第31巻第1号)では、民主化以降、韓国では主要政党が特定地域を票田ないし安全選挙区(safe seats)とする集票パターン(いわゆる地域主義)が定着してきたという既知の事項に関し、2020年4月実施の総選挙における主要政党幹部及び候補者の行動を、文献レビューを基に分析し、主要政党には安全選挙区存在を保障する地域主義を維持する強い誘因があることを指摘した。

その後、2021年5月に刊行された「韓国の国会議員選挙における政党の候補者公認プロセスと政党の凝集性 第20代から第21代選挙にかけての嶺南政党を事例として」(『北東アジア地域研究』第27号)では、一たび公認候補として出馬すれば確実に当選が見込める安全選挙区での党公認が韓国の政党政治当事者においては最大の関心事であり、党執行部にとっては、この公認プロセスを政治資源として巧みに使えるかどうかが所属議員からの忠誠を得るポイントであること、換言すれば、こうした公認プロセスが重要性を帯びる韓国の政党政治に対し、利益団体等が利益表出を図る余地は限定的であることを示した。

2022年5月に刊行された「民主化後の韓国における第三政党とその二大政党への合流をめぐる考察 第三政党所属議員の政治的生存に着目して」(『北東アジア地域研究』第28号)及び2023年5月に刊行された「韓国における国会議員へのキャリアパスとしての地方議員・首長 2020年総選挙当選者の地方議員・首長経験に着目して」(『北東アジア地域研究』第29号)では、政党間を移動した政治家や、地方政界から国政に転出した政治家にとっても、上述した安全選挙区での公認が党執行部から得られるかどうか政治活動上の最大の関心事であり、そこに利益団体等による利益表出が介在する余地が限定的であることを示した。

最後に、2024年に刊行した「民主化後の韓国における韓国労総の政治活動をめぐる一考察: ILO基本協約第87号の批准同意過程を中心として」(『北東アジア地域研究』第30号)では、利益団体側の視点に立ち、インタビュー調査を手法として活用し、前述のように利益団体への対応

性が低い韓国の主要政党に対し、利益団体側がどのようなタクティクスを展開しているのかを考察した。考察の結果、同国の利益団体は、政党が世論や利益団体のリクエストといった民意への対応性が低いことを見越し、複数の政党に組織内候補を擁立するなどの対応をとっていることが明らかとなった。

〔学会発表〕

本研究に基づく学会発表は6回実施した。2020年12月に開催された Thammasat University Conference for Asia Pacific Studies 2020 での発表 'MPs' Loyalty to Political Parties and Candidate Selection in South Korea' 及び2021年9月に開催された日本政治学会2021年学術大会での発表「小選挙区制における候補者選定と政党の資源：韓国を事例として」では、韓国の総選挙に先立つ政党内政治の特徴をまとめ、討論者等からの有益な指摘を得た。

2022年6月に開催された The 13th Asian Conference on the Social Sciences での発表 'Diversified Career Paths of Legislators in New Democracies: South Korea's Case' では、政治家のキャリアパスとその資源について比較政治学的考察を行い、韓国や、韓国と同時期に民主化した中東欧諸国の研究者らから有益な指摘を得た。

2022年9月に北東アジア学会第28回学術研究大会での発表「韓国国会議員のキャリアパス」では、韓国の国会議員の政治キャリアでは、主要政党執行部から安全選挙区での公認等の資源を獲得することが死活的に重要であることを示し、討論者等から有益なコメントを得た。2023年7月に韓国政治学会・世界大会2023で行った発表「社会運動家の国会議員当選をめぐる日韓比較（韓国語）」及び2023年9月に北東アジア学会第29回学術研究大会で行った発表「韓国における国会議員の政治的資源（韓国語）」では、社会運動家や利益団体と政党政治家との関わりを韓国語で発表し、韓国の研究者から有益な指摘を得た。これらの発表および討論・指摘の内容は、いずれも先述した学術論文に反映され、刊行された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 縄倉晶雄	4. 巻 29
2. 論文標題 韓国における国会議員へのキャリアパスとしての地方議員・首長 2020年総選挙当選者の地方議員・首長経験に着目して	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 北東アジア地域研究	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 縄倉晶雄	4. 巻 28
2. 論文標題 民主化後の韓国における第三政党とその二大政党への合流をめぐる考察 第三政党所属議員の政治的生存に着目して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 北東アジア地域研究	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 縄倉 晶雄	4. 巻 27
2. 論文標題 韓国の国会議員選挙における政党の候補者公認プロセスと政党の凝集性：第20代から第21代選挙にかけての嶺南政党を事例として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 北東アジア地域研究	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 縄倉 晶雄	4. 巻 30
2. 論文標題 民主化後の韓国における韓国労総の政治活動をめぐる一考察：ILO基本協約第87号の批准同意過程を中心として	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 北東アジア地域研究	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 縄倉 晶雄	4. 巻 31
2. 論文標題 新興民主主義国家としての韓国における政党政治の制度化 2020年総選挙を事例とする予備的考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 文教大学国際学部紀要	6. 最初と最後の頁 103-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 Nawakura, Akio
2. 発表標題 MPs' Loyalty to Political Parties and Candidate Selection in South Korea
3. 学会等名 Thammasat University Conference for Asia Pacific Studies 2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Nawakura, Akio
2. 発表標題 Diversified Career Paths of Legislators in New Democracies: South Korea's Case
3. 学会等名 The 13th Asian Conference on the Social Sciences (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 縄倉 晶雄
2. 発表標題 小選挙区制における候補者選定と政党の資源：韓国を事例として
3. 学会等名 日本政治学会2021年度学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 縄倉 晶雄
2. 発表標題 韓国国会議員のキャリアパス
3. 学会等名 北東アジア学会第28回学術研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 縄倉 晶雄
2. 発表標題 社会運動家の国会議員当選をめぐる日韓比較（韓国語）
3. 学会等名 韓国政治学会 世界大会2023（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 縄倉 晶雄
2. 発表標題 韓国における国会議員の政治的資源（韓国語）
3. 学会等名 北東アジア学会第29回学術研究大会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------